



サーガ外伝 神の仮面



ジジ

彼の素顔を知るものは、そう多くはいない。

剣士である彼だが研究熱心なその知識はスクリプトにも精通し、スペルユーザーですら脱帽する。

一冊の本が彼を夢中にさせた、いつからそこにあったのか、詰まれた本の一番下にあった。

そこにある記述を解読し、要求される素材を集める日々が続く。

それが完成した日、本は消えた。

それを装着した彼にはもはや、本の存在などどうでもよいことだった。

最強を実感できた、恐れなど無縁と思える強さ、あらゆるフィールドのモンスターは、彼の敵ではなくなった。

赤い涙を流す仮面、仮面の剣士はだれも知る存在となった。

仮面の強大な力はやがて彼のすべてを、支配しはじめる。

そして仮面は人を襲い始める、狂気？いや 仮面がその存在を維持するために必要なこと。

仮面の欲望を満たすために、フィールドを徘徊する仮面の剣士、尽きることない欲望。人々は遠ざかっていく、果てしなく続く悲しきループ。

ある日一人のギルドマスターが、彼に、コトバを。

「仮面を棄て わたしとともに」

ビシッ！ 仮面が割れ 足元に落ちる。

数日後剣士の姿は消えた、仮面に呼ばれ 闇へ消えたのだろうか？

ギルドマスターはゆっくりと首を振る。

「そうではない 彼はもっと強くなって帰ってくる いつか きっと」